に勝れりといへり、又此樹は海石榴に似て、高きものは一丈許、低きものは二尺を過ずして、よく華さくものなるに、和漢三才圖會に、遠州有山茶花大木周三尺高三丈餘といひしは、その產地今詳ならず、

夏椿

〔草木育種後編下蘭類并冒稱の類〕夏椿　一名ゑやら、日光にてサルスベリといふ、花夏月開く、五出にして白色なり、實を春月早く蒔て、二三年を過て砧となし、春葉出ぬ前によび接にしてよし、一種豆州天城山に產するサルスベリ、一名赤ぎといふものあり、似て花小なり、この木の枝を江戸の石匠石鑿の柄となす、又材は柱となして雅なり、盆に植たるは糞水を澆ぎてよし、花戸に多し、插花に用ふ、

茶

〔倭名類聚抄十六水漿〕茶茗　爾雅集注云、茶宅加反、字亦作搽、小樹似支子、其葉可煮爲飲、今呼早採爲茶、晚採爲茗音酪茗一名茛音喘風土記云、茛者茗老葉名也、

〔箋注倭名類聚抄四水漿〕爾雅釋木釋文云、茶埤蒼作槚、廣韻云、槚春藏葉、可以爲飲、茶俗、按爾雅釋艸、茶苦菜、詩毛傳、說文並云、茶菜名、是茶字本訓、以茗其味苦轉謂茗亦爲茶、爾雅釋木云、檟苦茶是也、茶茗字、後人從木作槚、以別苦菜之茶、俗又省作茶、槚字亦遂廢矣、陸羽茶經云、其字或從艸、或從木、或艸木并從艸、當作茶、出開元文字音義、從木當作槚、其字出本艸、艸木并作茶、其字出爾雅、但今本爾雅作茶不作茶、蓋源君所見爾雅作茶歟、釋木、檟苦茶、郭注略同、陸羽茶經、茶者南方嘉木也、一尺二尺迺至數十尺、其巴山峽川有兩人合抱者、伐而掇之、其樹如瓜盧、葉如梔子、花如白薔薇、實如栟櫚、葉如丁香、根如胡桃、伊勢廣本茶皆作茶、與今本爾雅合、蓋苦菜茶茗同名異物、然茶茗之茶、後省作茶、以別苦菜之茶、源君或從之、今不徑改、集韻茶葉老者、太平御覽引魏王花木志云、老葉謂之荈、細葉謂之茗、

〔伊呂波字類抄知殖物附殖物具〕茶チヤ亦作搽、小樹似支子、其葉可煮爲飲、今呼早採爲茶、晚採爲茹、一名荈苦端茶風土記天荈老葉名也　荈茗草名也